

# 戸田市 事務事業評価 《事後評価シート》

事務事業名	21188 プリムローズ管理運営事業													
担当組織	こども青少年部					児童青少年課					担当	青少年担当		
組織コード	R2	18	06	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	03	02	05	01	01	記入日	令和 2年 6月28日
	R1	18	06	00		R1	01	03	02	05	01	01		

## 1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ										実施計画候補				
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち								● 対象  ○ 対象外				
分野	02	児童・青少年育成												
施策	06	児童・青少年の活動促進												
事業期間	平成17年度～													
根拠法令 通達等	児童福祉法 児童福祉法施行規則 戸田市立児童センター条例 戸田市立児童センター条例施行規則					関連計画 施政方針		子ども・子育て支援事業計画						
事業区分	<input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="radio"/> 自治事務のうち任意のもの													
対象	18歳以下の児童とその保護者等													
事業目的	遊びを通して児童の健全育成を図り、併せて体力増進、コミュニケーションの促進を図る。科学的要素や情報機能を体験しながら学習すること、創作活動を通して学校教育の補完機能を高めること及び育児に不安を抱く保護者の悩みを解消することなどを目的とする。													
事業内容	事業目的を達成するための各種講座等の実施。育児に関する相談を受け、また、地域との連携を図る。													
実施主体	<input type="checkbox"/> 市による単独直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託    ( <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 (    )													

## 2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容	令和元年度 執行額(千円)	令和2年度 予算額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)	
		事業内容	管理運営(指定管理料) 施設修繕		管理運営(指定管理料) 施設修繕	管理運営(指定管理料) 施設修繕	管理運営(指定管理料) 施設修繕
事業費		72,074	161,075	158,151	73,296	73,296	
財源内訳	国庫支出金	0	790	790	790	790	
	県支出金	0	790	790	790	790	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	0	213	213	213	213	
	一般財源	72,074	159,282	156,358	71,503	71,503	
人件費		1,985.92	3,150.08	3,150.08	3,150.08	3,150.08	
投入人員	常勤職員	0.29人	0.46人	0.46人	0.46人	0.46人	
	非常勤職員	0人	0人	0人	0人	0人	
事業費+人件費		74,060	164,225	161,301	76,446	76,446	
目標達成状況	指標名		単位	説明・算定式	H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動①	行事・講座の開催回数	回	年間延べ開催数	330	330	165
					353	299	-
	成果①	行事等参加者数	人	年間延べ参加者数	25,000	25,000	12,500
					24,349	20,157	-
	成果②	年間来館者数	人	年間延べ来館者数	120,000	120,000	60,000
130,815					121,528	-	
目標達成状況の分析	B：活動・成果のいずれかを達成した。 <判断理由> 行事・講座の開催回数及び行事等参加者数において目標を達成出来なかった。年度末に新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年3月4日から休館となったことが主な要因である。 なお、令和2年6月22日から一部を除き全館再開となったが、新型コロナウイルスの感染防止のため、利用制限を設けての運営となるため、令和2年度の目標値は元年度よりも低い値(50%)を設定した。						

## 3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由>
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：経費は適正な範囲である。
	A	A	B	<判断理由> 市の負担は適正である。しかし、老朽化による各種不具合等の修繕については早めに対応していく必要がある。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	A	A	A	<判断理由>
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由>

## 4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	排煙装置について、動作部分（ハンドル、ワイヤー等）の経年劣化が著しく突発的な破損の恐れがあり、排煙窓は火災時などに煙を出すための重要な設備であり、修繕を行った。
見直しの効果	施設の老朽化に対応し、安全な施設運営に繋がった。

## 5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 市の西部の児童の居場所の拠点として位置づけられる施設であり、これからも利用者を維持拡大できるよう、指定管理者とともに魅力ある児童センターの運営について検討し、継続実施をしていく必要がある。
今後の取組方針	当該施設も開設後25年以上が経過し、施設の一部に老朽化もみられる。今後においては、大規模な修繕も視野に入れて、計画的に修繕を実施する。特に、光熱水費の負担増加があり、不具合の出ている空調設備の修繕を行わなければならない。 また、指定管理者の意見も聞きながら、新しい備品等も導入し、来館者数の増加に努めていく。 さらに、中高生の居場所を意識した事業の取組を推進していく。 なお、令和2年度に指定管理者の選定を実施する。 今後は新型コロナ対策にも力を入れ、新しい運営の在り方を築いていく。

事務事業名	45386 こどもの国管理運営事業													
担当組織	こども青少年部				児童青少年課					担当	青少年担当			
組織コード	R2	18	06	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	03	02	05	02	01	記入日	令和 2年 6月24日
	R1	18	06	00		R1	01	03	02	05	02	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ													実施計画候補
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち										○ 対象 ● 対象外	
分野	02	児童・青少年育成											
施策	06	児童・青少年の活動促進											
事業期間	平成27年度～												
根拠法令 通達等	児童福祉法 児童福祉法施行規則 戸田市立児童センター条例 戸田市立児童センター条例施行規則					関連計画 施政方針	子ども・子育て支援事業計画						
事業区分	○ 法定受託事務      ○ 自治事務のうち義務的なもの      ● 自治事務のうち任意のもの												
対象	児童（18歳以下の者） 付添人（保護者又は満20歳以上の者で児童の行為に責任をもてるもの）												
事業目的	遊びを通して児童の健全育成を図り、併せて体力増進、コミュニケーションの促進を図り、また、育児に不安を抱く保護者の悩みを解消することなどを目的とする。												
事業内容	事業目的を達成するための各種講座等の実施。育児に関する相談を受け、また、地域との連携を図る。												
実施主体	<input type="checkbox"/> 市による単独直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託                      ( <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ( )												

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		令和元年度 執行額（千円）	令和2年度 予算額（千円）	令和3年度 計画額（千円）	令和4年度 計画額（千円）	令和5年度 計画額（千円）
	事業費		114,827	127,178	121,937	12,717	12,717
	財源内訳	国庫支出金	0	790	790	790	790
		県支出金	0	790	790	790	790
		起債	0	0	0	0	0
		その他	0	244	244	244	244
		一般財源	114,827	125,354	120,113	10,893	10,893
	人件費		1,985.92	1,506.56	1,506.56	1,506.56	1,506.56
	投入 人員	常勤職員	0.29人	0.22人	0.22人	0.22人	0.22人
		非常勤職員	0人	0.18人	0.18人	0.18人	0.18人
事業費+人件費		116,813	128,685	123,444	14,224	14,224	
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式	H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動 ①	イベント・講座の開催回数	回	年間の延べ開催日数	380	400	200
					640	437	—
	成果 ①	年間利用者数	人	年間の延べ利用者数	150,000	170,000	85,000
					222,340	171,811	—
	成果 ②	年間利用者数（中高生）	人	年間の延べ利用者数（中高生）	10,000	11,000	5,500
18,129					13,080	—	
目標達成 状況 の分析		A：活動・成果ともに達成した。 <判断理由> すべて目標を達成できたが、昨年度よりも実績値が低くなっている。年度末に新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年3月4日から休館となったことが主な要因である。 なお、令和2年6月22日から一部を除き全館再開となったが、新型コロナウイルスの感染防止のため、利用制限を設けての運営となるため、令和2年度の目標値は元年度よりも低い値（50%）とした。					

## 3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由>
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由>
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	A：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	A	A	A	<判断理由>
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由>

## 4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	樹木の剪定、防犯灯修繕等、適宜修繕を行っている。
見直しの効果	各種修繕により、施設の魅力・快適性を向上させた。

## 5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 来館者も約20万人と多くの市民が期待を寄せて来館していただいているため、引き続き指定管理者とともに魅力ある児童センターの運営について検討し、利用者の維持拡大に努めるとともに、子育て支援、児童青少年の居場所としての事業展開を推進していくことが必要である。
今後の取組方針	軽体育室やスタジオなどの施設の特徴を活かし、乳幼児から中高生までが利用できる事業展開を引き続き推進していく。また、中高生による運営委員会により、イベントにおける企画を行っており、今後も中高生によるアイデアの事業への反映や中高生の自主性を育む事業展開を推進していく。指定管理者はその活動をサポートする体制を推進していく。 今後は新型コロナ対策にも力を入れ、新しい運営の在り方を築いていく。

事務事業名	35924 青少年の居場所事業													
担当組織	子ども青少年部				児童青少年課					担当	青少年担当			
組織コード	R2	18	06	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R2	01	10	04	03	01	04	記入日	令和 2年 6月24日
	R1	18	06	00		R1	01	10	04	03	01	04		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ											実施計画候補		
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち									○ 対象		
分野	02	児童・青少年育成									● 対象外		
施策	06	児童・青少年の活動促進											
事業期間	平成23年度～												
根拠法令 通達等						関連計画 施政方針	子ども・子育て支援事業計画						
事業区分	<input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="radio"/> 自治事務のうち任意のもの												
対象	市内在住及び市内の高校に通学する青少年(小学生～高校生)												
事業目的	公共施設を青少年に開放し、安全・安心な居場所を確保することを目的とする。												
事業内容	市内公共施設に指導員を配置して青少年の居場所として開放し、青少年が自由に利用できるようにする。												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託      ( <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO ) <input type="checkbox"/> 協働・協力 (      )												

2. 実施結果

事業の 予算・実績			令和元年度 執行額(千円)	令和2年度 予算額(千円)	令和3年度 計画額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)
	事業内容		居場所の設置	居場所の設置	居場所の設置	居場所の設置	居場所の設置
事業費		4,576	18,018	16,362	18,018	18,018	18,018
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0
	一般財源	4,576	18,018	16,362	18,018	18,018	18,018
人件費		1,985.92	3,697.92	3,697.92	3,697.92	3,697.92	3,697.92
投入 人員	常勤職員	0.29人	0.54人	0.54人	0.54人	0.54人	0.54人
	非常勤職員	0.2人	0.02人	0.02人	0.02人	0.02人	0.02人
事業費+人件費		6,562	21,716	20,060	21,716	21,716	21,716

目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式	H30目標 H30実績	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績
	活動 ①	居場所の数	箇所	実施施設数	5	5	5
					5	5	-
	成果 ①	利用者数	人	年間延べ利用者数	1,500	1,500	750
					1,492	1,357	-
成果 ②						-	

目標達成 状況 の分析	B：活動・成果のいずれかを達成した。 <判断理由> 実施施設は、東部福祉センター、新曽福祉センター、笹目コミュニティセンター、心身障害者福祉センター、新曽南多世代交流館さくらパルの計5箇所。利用者数については、前年度と比べ減少しているが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和2年3月4日より青少年の居場所を休止したことが主な要因である。7月1日から再開予定となったが、利用制限を設けての運営となるため、利用者数については、令和2年度の目標値は前年度よりも低く(50%)に設定した。						
-------------------	--	--	--	--	--	--	--

## 3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	29年度	30年度	1年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<判断理由>
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由>
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	29年度	30年度	1年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由>
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	29年度	30年度	1年度	A：受益・負担は十分な検討、見直しを実施している。
	A	A	A	<判断理由>

## 4. 令和元年度中に実施した見直し内容

見直し内容	昨年度に引き続き、熱中症対策やおむかえ制度（冬季、夕焼けチャイムが午後5時30分、午後4時30分と短くなり、小学生の利用時間も短くなってしまったため、保護者のおむかえがある場合は小学生の利用時間を午後6時まで可能とする）を実施した。また、青少年の居場所の周知チラシを配布し、スタッフの募集を行った。
見直しの効果	よりよい居場所の提供と、新たなスタッフの登録に結び付いた。

## 5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了 <input type="radio"/> 令和元年度で終了
	<判断理由> 青少年にとって安心・安全な居場所として機能しており、また、少ない経費で効果を上げられることから、今後も継続して実施する。
今後の取組方針	青少年の居場所については、居場所の開催回数、場所を確保していくため、スタッフの確保及び使用施設の検討を進めるとともに、「おむかえ制度」を含め、周知をさらに行っていく。 青少年の広場については、子どもの安心・安全な居場所を提供していく。 今後は新型コロナ対策にも力を入れ、新しい運営の在り方を築いていく。